

SAMPLE

特集レポート No. 005

## 海外における加工食品の最新事例

*Strictly Confidential*



2017年 6月28日 (第一版)

2020年 4月23日 (第二版)

## はじめに

---

- 日本の加工食品業界におけるイノベーションはその特性上、「グルタミン酸ナトリウム」、「カップ麺」など一部に成功事例はあるものの、大きなインパクトのあるアイデアが生まれにくいと考えられてきた。しかしながら、グローバルに目を向けると、違った様相が見える
- アメリカのスタートアップの聖地であるシリコンバレーで近年注目されているのが「加工食品」である。その背景には、先進国における食の嗜好・ニーズの多様化、途上国における栄養不足問題の深刻化などがあり、スタートアップは変化する社会情勢に目をつけて盛んに事業を興している
- 本レポートでは、海外の加工食品の先端事例を紹介し、加工食品業界で起こりつつあるイノベーションの一端に触れることとする

# 本資料の流れ

---



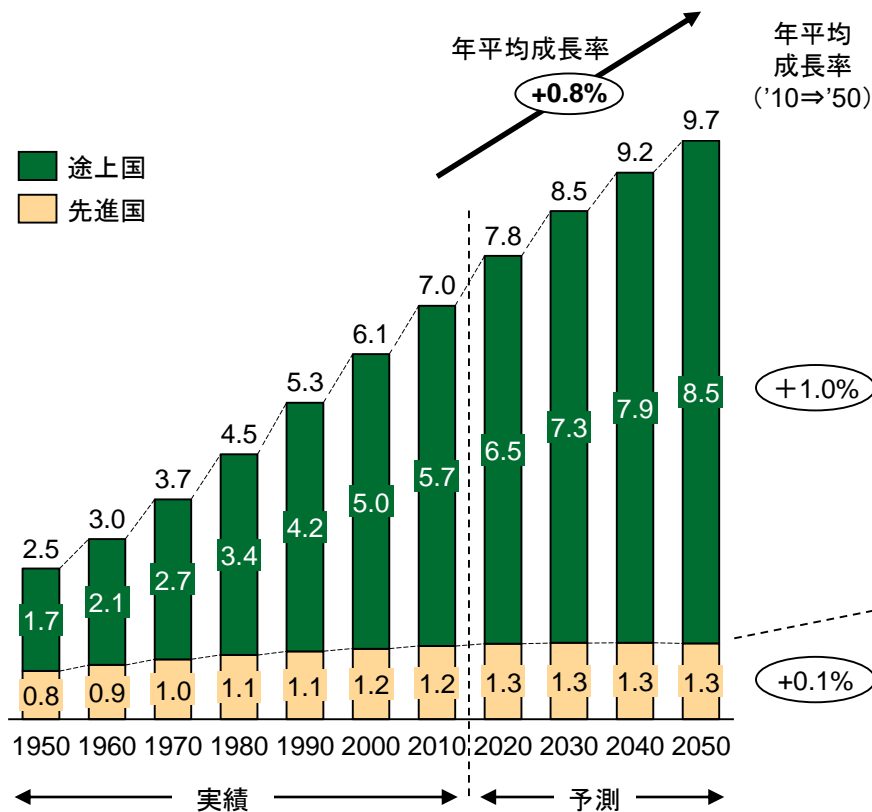
- I. 海外の加工食品ビジネスの現状
- II. 海外先進事例の紹介

# 海外加工食品業界を取り巻く現状

- 世界人口の急拡大にともない開発途上国を中心に食糧不安が発生している
- 先進国ではライフスタイルの変化により食へのニーズは多様化し、食品加工会社には多様化するニーズへの対応が求められている

## 世界人口の推移

単位:十億人



## 世界の加工食品業界が迎つつある世界

- 世界の栄養不足人口は10億人を超過
  - “食物から摂取する熱量が、一定程度の強度の労働に従事した際の一定の体格の維持を前提として、国や民族ごとに算出される基準値よりも低い状態にある人々の数(FAO)”
- 穀物、大豆の国際価格は高水準で推移
  - 食料価格も中長期的に上昇する見込み
  - 穀物等の生産は特定国に集中
- 加工食品業界の発展には様々な不安要素
  - 開発途上国を中心とした人口の増加
  - 中国・インド等の経済発展
  - バイオ燃料の増加等による食料・農産物需給の逼迫
  - 供給面では収穫面積・単収の伸び悩み
  - 地球規模の気候変動の生産への影響
 (以上、農林水産省「世界の食料事情と農産物貿易の動向」より)
- 食のニーズの多様化
  - 健康志向、ベジタリアン、等
  - 輸入食品との競争が激化、高齢化の進展、人口減少、女性の社会進出、ライフスタイルの多様化等が背景
 (以上、農林水産省「食料・農業・農村白書」を参考に記載)

注: \*1. 「先進国」: 日本、北アメリカ(中央アメリカ及びカリブ海を除く)、オーストラリア、ニュージーランド及びヨーロッパの国(地域) 「途上国」: 先進国を除く全ての国(地域)

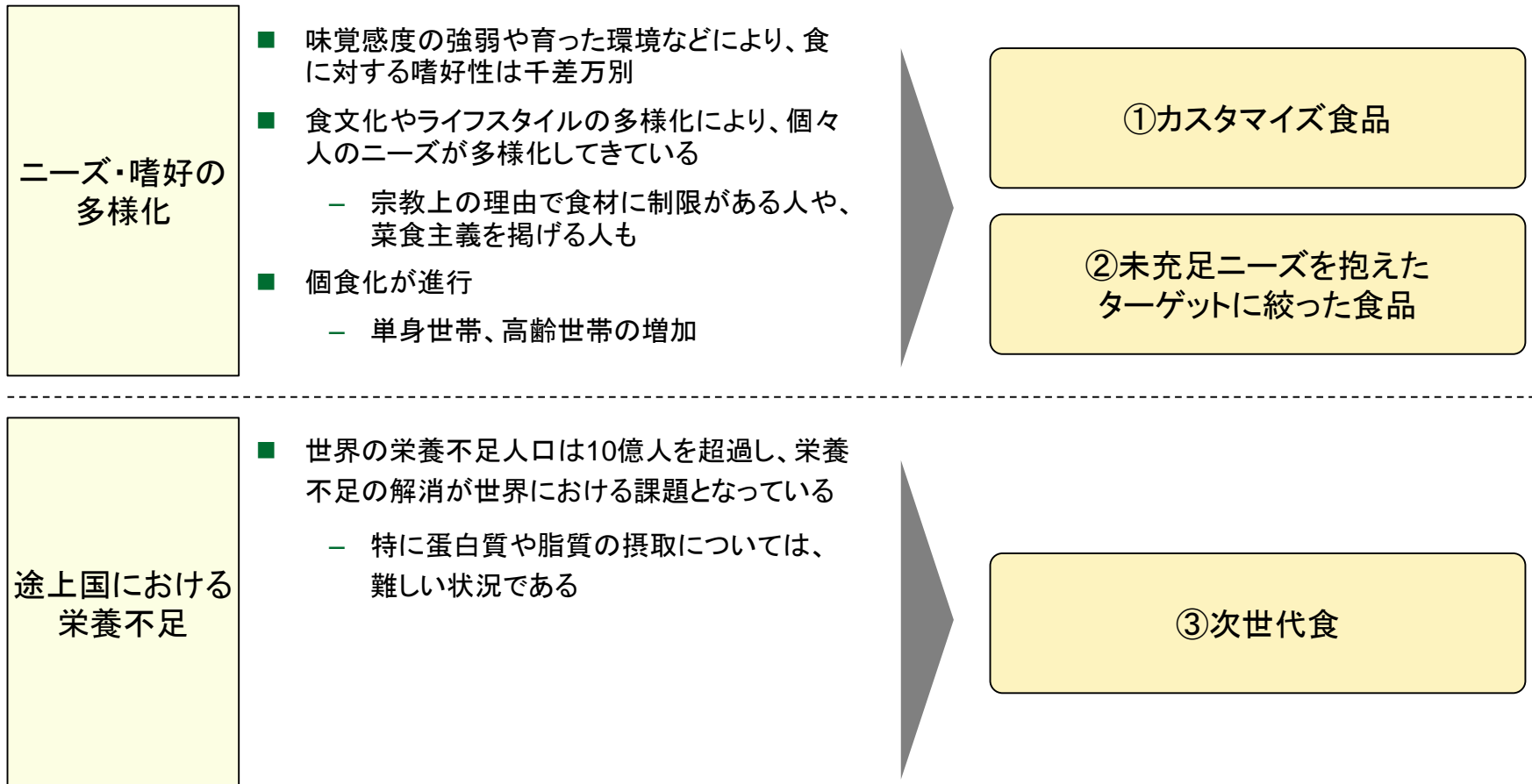
出所: UN, World Population Prospects: The 2019 Revision、農林水産省「世界の食糧事情と農産物貿易の動向」「食料・農業・農村白書」

# 加工食品ビジネスによる先端事例紹介の枠組み

- ニーズ・嗜好の多様化の観点から、個別のニーズに対応できるカスタマイズ商品やターゲットを絞った商品が出てきた
- 栄養不足の解消の方向で、安定供給でき安価で栄養価の高い食品である次世代食が登場

## 世界の加工食品市場で起きつつあること

## 事例紹介の枠組み



## SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。  
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

